

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号  
特許第6749712号  
(P6749712)

(45) 発行日 令和2年9月2日 (2020.9.2)

(24) 登録日 令和2年8月14日 (2020.8.14)

(51) Int.Cl.  
G02C 5/16 (2006.01)

F I  
G O 2 C 5/16

請求項の数 6 (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2019-134270 (P2019-134270)	(73) 特許権者	508140280
(22) 出願日	令和1年7月22日 (2019.7.22)		株式会社アイゾーンジャパン
(65) 公開番号	特開2020-95243 (P2020-95243A)		大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋1-5-1
(43) 公開日	令和2年6月18日 (2020.6.18)	(74) 代理人	100163186
審査請求日	令和2年6月29日 (2020.6.29)		弁理士 松永 裕吉
(31) 優先権主張番号	特願2018-226945 (P2018-226945)	(72) 発明者	内田 賢
(32) 優先日	平成30年12月4日 (2018.12.4)		大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋1-5-1
(33) 優先権主張国・地域又は機関	日本国 (JP)		-7F 株式会社アイゾーンジャパン内
早期審査対象出願		審査官	森内 正明
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 眼鏡

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

眼鏡であって、  
上下方向に幅広のテンブルと、  
根元が前記テンブルの内側の所定位置に固定され、そこから先端にかけて前記テンブルの内側面から徐々に逸れるように前記テンブルの延在方向に沿って延びるテンブルパッドと、を備え、  
前記テンブルパッドは、根元部分が細く、かつ、前記眼鏡を装着した際に装着者のこめかみに接する先端部分が下方に緩やかに膨らむ肉厚形状に形成されており、  
側面視で前記テンブルパッドの全体またはほとんどが前記テンブルに隠れて見えないようになり、  
前記テンブルパッドは、根元が前記テンブルの後方寄りの所定位置に固定され、そこから前方に延びており、  
前記テンブルパッドの根元部分の前記テンブルに面する側に当該根元部分における前記テンブルパッドと前記テンブルとの隙間を埋める程度に突起した凸部が形成されていることを特徴とする眼鏡。

【請求項2】

前記テンブルが、内側面上に、前記テンブルの延在方向に開口するポケットを有しており、  
前記テンブルパッドの根元部分の先端が前記ポケットに差し込まれて前記テンブルパッ

ドが前記テンブルに固定されている

ことを特徴とする請求項 1 に記載の眼鏡。

【請求項 3】

前記テンブル、前記ポケット、およびモダンが一体部材として形成されている

ことを特徴とする請求項 2 に記載の眼鏡。

【請求項 4】

前記モダンの先端付近が最厚部の厚み 7 mm 程度で内側に膨らんでいる

ことを特徴とする請求項 3 に記載の眼鏡。

【請求項 5】

前記テンブルパッドが、

塑性変形可能な金属製の芯材と、

前記芯材の一端が露出するように前記芯材に被せられ、前記根元部分およびそれに続く前記先端部分が一体部材として形成された合成樹脂製のパッド本体と、を有しており、

前記芯材が、前記パッド本体から露出した一端が前記テンブルの内側の前記所定位置に固定され、そこから他端にかけて前記テンブルの内側面から徐々に逸れるように前記テンブルの延在方向に沿って延びている

ことを特徴とする請求項 1 ないし 4 のいずれかに記載の眼鏡。

【請求項 6】

前記テンブルパッドが前記テンブルに着脱自在に固定されている

ことを特徴とする請求項 1 ないし 4 のいずれかに記載の眼鏡。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、眼鏡に関し、特に鼻パッドなしで安定的に装着可能な眼鏡に関する。

【背景技術】

【0002】

一般的に眼鏡は、左右一对のレンズが固定されたフロントと、フロントの左右両端から延びるテンブルと、テンブルの先に取り付けられたモダンとから構成される。また、眼鏡の装着時にフロントが顔面からずり落ちるのを防止するために、フロントの中央部分に鼻あてあるいは鼻パッドが設けられる。

【0003】

このような眼鏡を長時間装着していると、鼻パッドが接触する鼻の付け根に眼鏡のフロントの荷重がかかり続けて不快感を覚えることがある。また、眼鏡を外したときに鼻の付け根に鼻パッドの痕が残ってしまうことがあり、美容上好ましくない。かかる問題に対して鼻パッドをなくした眼鏡が多く提案されている（例えば、特許文献 1 ないし 5 を参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開 2003 - 121800 号公報

【特許文献 2】特開 2001 - 201721 号公報

【特許文献 3】実用新案登録第 3214365 号

【特許文献 4】実用新案登録第 3198964 号

【特許文献 5】特開 2011 - 99939 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

鼻パッドをなくすと鼻の付け根で眼鏡のフロントの荷重を支えられなくなるため、従来の鼻パッドなしの眼鏡はいずれもこめかみで荷重を支える構造を採用している。

【0006】

10

20

30

40

50

顔面に位置する眼鏡のフロントの荷重を側頭部のこめかみで安定的に支えるには、こめかみとの接触部分の面積を大きくするなど支持構造をある程度大きくする必要がある。しかし、当該支持構造を大きくすると、眼鏡の装着時に支持構造が目立ってしまい、見た目が悪くなる。特にファッション性が求められる眼鏡では支持構造は極力目立たなくすることが望ましい。一方、見た目を優先して支持構造を細く、小さくすると、今度は装着時の安定性が損なわれてしまう。このように鼻パッドなしの眼鏡では装着安定性と見た目のよさがトレードオフの関係にある。

【 0 0 0 7 】

上記問題に鑑み、本発明は、鼻パッドなしで安定的に装着可能であるとともに装着時に支持構造が目立たない眼鏡を提供することを目的とする。

10

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 8 】

本発明の一局面に従った眼鏡は、上下方向に幅広のテンプルと、根元がテンプルの内側の所定位置に固定され、そこから先端にかけてテンプルの内側面から徐々に逸れるようにテンプルの延在方向に沿って延びるテンプルパッドと、を備え、テンプルパッドは、根元部分が細く、かつ、眼鏡を装着した際に装着者のこめかみに接する先端部分が下方に緩やかに膨らむ肉厚形状に形成されており、側面視でテンプルパッドの全体またはほとんどがテンプルに隠れて見えなくなっている。

【 0 0 0 9 】

テンプルパッドが、塑性変形可能な金属製の芯材と、芯材の一端が露出するように芯材に被せられ、根元部分およびそれに続く先端部分が一体部材として形成された合成樹脂製のパッド本体と、を有していてもよく、芯材が、パッド本体から露出した一端がテンプルの内側の所定位置に固定され、そこから他端にかけてテンプルの内側面から徐々に逸れるようにテンプルの延在方向に沿って延びていてもよい。

20

【 0 0 1 0 】

テンプルが、内側面上に、テンプルの延在方向に開口するポケットを有していてもよく、テンプルパッドの根元部分の先端がポケットに差し込まれてテンプルパッドがテンプルに固定されていてもよい。

【 0 0 1 1 】

テンプル、ポケット、およびモダンが一体部材として形成されていてもよい。さらに、モダンの先端付近が最厚部の厚み7mm程度で内側に膨らんでいてもよい。テンプルパッドは、根元がテンプルの後方寄りの所定位置に固定され、そこから前方に延びていてもよい。さらに、テンプルパッドの根元部分のテンプルに面する側に当該根元部分におけるテンプルパッドとテンプルとの隙間を埋める程度に突起した凸部が形成されていてもよい。

30

【 0 0 1 2 】

テンプルパッドがテンプルに着脱自在に固定されていてもよい。

【発明の効果】

【 0 0 1 3 】

本発明によると、鼻パッドなしで安定的に装着可能であるとともに装着時に支持構造が目立たないようにすることができる。

40

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 4 】

【図1】本発明の一実施形態に係る眼鏡の斜視図

【図2】本発明の一実施形態に係る眼鏡の平面図

【図3】本発明の一実施形態に係る眼鏡の側面図

【図4】テンプルパッド差し込み用のポケット付近の拡大図

【図5】テンプルパッドの分解拡大図

【図6】テンプルパッドの取り付けを説明する図

【図7】テンプルパッドからパッド本体を引き抜いた状態を示す図

50

【図 8】変形例に係るテンブルパッドの斜視図

【図 9】図 8 のテンブルパッドをテンブルに取り付けたときの取り付け部分の拡大図

【図 10】通常のコダンと変形例に係るコダンとの比較図

【発明を実施するための形態】

【0015】

以下、適宜図面を参照しながら、実施の形態を詳細に説明する。ただし、必要以上に詳細な説明は省略する場合がある。例えば、既によく知られた事項の詳細説明や実質的に同一の構成に対する重複説明を省略する場合がある。これは、以下の説明が不必要に冗長になるのを避け、当業者の理解を容易にするためである。

【0016】

なお、発明者は、当業者が本発明を十分に理解するために添付図面および以下の説明を提供するのであって、これらによって特許請求の範囲に記載の主題を限定することを意図するものではない。また、図面に描かれた各部材の寸法、厚み、細部の詳細形状などは実際のものとは異なることがある。

【0017】

図 1 は、本発明の一実施形態に係る眼鏡の斜視図である。図 2 は、本発明の一実施形態に係る眼鏡の平面図である。図 3 は、本発明の一実施形態に係る眼鏡の側面図である。なお、本明細書では、眼鏡を装着したときの頭部の矢状方向、水平方向、および垂直方向を、それぞれ眼鏡の前後方向、左右方向、および上下方向とする。

【0018】

眼鏡の概略構成

本実施形態に係る眼鏡 100 は、左右一対のレンズ 10L, 10R を固定するフロント 20 と、左右一対のテンブル 30L, 30R と、テンブル 30L, 30R の内側の所定位置に固定された左右一対のテンブルパッド 40L, 40R と、を備えている。テンブル 30L, 30R は、フロント 20 の左右両端に設けられたヒンジ 50L, 50R のそれぞれを介してフロント 20 に接続されており、フロント 20 側に折りたたむことができるようになっている。

【0019】

フロントの構成例

フロント 20 は、前方にやや膨らむように緩やかに湾曲している。その湾曲度合いは眼鏡 10 の用途に応じて設計すればよく、例えばファッション眼鏡では湾曲を大きくし、視力矯正用眼鏡では湾曲を小さくすることができる。また、フロント 20 は、湾曲しないストレート形状であってもよい。

【0020】

具体的に、フロント 20 は、レンズ 10L, 10R を固定可能な左右一対のリム 21L, 21R と、リム 21L, 21R を繋ぐブリッジ 22 と、リム 21L の左端およびリム 21R の右端に設けられた左右一対のヨロイ 23L, 23R とから構成される。ヒンジ 50L, 50R は、それぞれ、ヨロイ 23L, 23R に取り付けられている。

【0021】

レンズ 10L, 10R は、視力矯正用レンズや遮光レンズの他、いわゆる度数なしレンズであってもよい。リム 21L, 21R、ブリッジ 22、ヨロイ 23L, 23R は一体形成されていても、それぞれ別のパーツとして形成されてつなぎ合わされていてもよい。

【0022】

なお、フロント 20 の材質は、合成樹脂でも金属でも何でもよい。

【0023】

テンブルの構成例

テンブル 30L, 30R は細い棒状の部材ではなく上下方向に一定の幅を持つ部材で構成されている。テンブル 30L, 30R の材質は、合成樹脂でも金属でも何でもよい。

【0024】

具体的には、テンブル 30L, 30R は、ヒンジ 50L, 50R との接続部分から末端

10

20

30

40

50

部分にかけて上下方向の幅が徐々に狭くなる形状をしている。テンブル30L, 30Rの最広部(ヒンジ50L, 50Rとの接続部分)の幅はおよそ15mmであり、最狭部(後述するモダンとの境界部分)の幅はおよそ4mmである。なお、これら寸法は一例であり、本発明はこれに限定されない。

#### 【0025】

テンブル30L, 30Rにおいて、眼鏡100を装着したときにこめかみから耳の上部に至る略直線部分31L, 31Rは外側にわずかに膨らんだ弧を描いて前後方向に延び、耳の上部から後ろに至るモダン32L, 32Rは曲率を小さくして内側に入り込むとともに下方に向けて湾曲している。略直線部分31L, 31Rの横断面は略矩形であり、その内側面33L, 33Rおよび外側面34L, 34Rはほぼ平らである。また、テンブル30L, 30Rの角は面取りされている。一方、モダン32L, 32Rの末端部分は内側に緩やかに膨らんだ肉厚の立体曲面形状をしている。

10

#### 【0026】

さらに、テンブル30L, 30Rは、それぞれ、内側面33L, 33R上に、テンブル30L, 30Rの延在方向に開口するポケット35L, 35Rを備えている。ポケット35L, 35Rにテンブルパッド40L, 40Rの根元部分の先端がそれぞれ差し込まれてテンブルパッド40L, 40Rがテンブル30L, 30Rに固定されるようになっている。

#### 【0027】

図4は、テンブルパッド差し込み用のポケット35R付近の拡大図である。テンブル30Rの略直線部分31Rの後端付近がテンブル30Rの内側面33Rから内側へ突出するように肉厚にされており、そこにポケット35Rが形成されている。内側面33Rから内側へ突出する肉厚部分はモダン32Rへと滑らかに繋がっており、モダン32Rの内側面36Rが形成されている。

20

#### 【0028】

ポケット35Rはその前方端面が開口しており、開口部の上下方向の長さはおよそ3mm、左右方向の長さはおよそ2mm、前後方向(テンブル30Rの延在方向)の奥行きはおよそ6mmである。なお、これら寸法は一例であって、本発明はこれに限定されない。

#### 【0029】

ポケット35Rの上部においてテンブル30Rの内側面33Rの上端からモダン32Rの内側面36Rの上端にかけて滑らかに続くリブ37Rが形成されている。また、ポケット35Rの下部においてテンブル30Rの内側面33Rの下端からモダン32Rの内側面36Rの下端にかけて滑らかに続くリブ38Rが形成されている。ポケット35Rは、これら二つのリブ37Rおよび38Rに挟まれた空間の奥にある。これら二つのリブ37Rおよび38Rはテンブルパッド40Rの根元部分の先端をポケット35Rに差し込む際のガイドの役割を果たす。

30

#### 【0030】

モダン32Rの内側面36R上のポケット35Rの開口部から後方に3mmほど離れた位置に孔39Rが空いている。この孔39Rは、ポケット35Rに差し込まれたテンブルパッド40Rをネジ止めするための孔である。

40

#### 【0031】

なお、ポケット35Lは上述のポケット35Rと形状が鏡面对称になるだけであるため、詳細な説明を省略する。

#### 【0032】

##### テンブルパッドの構成例

図1ないし3を再び参照し、テンブルパッド40L, 40Rは、それぞれ、根元がテンブル30L, 30Rの内側の所定位置に固定され、そこから先端にかけてテンブル30L, 30Rの内側面33L, 33Rから徐々に逸れるようにテンブル30L, 30Rの延在方向に沿って延びている。具体的には、テンブルパッド40L, 40Rの根元は、それぞれ、テンブル30L, 30Rの略直線部分31L, 31Rの後端付近に設けられたポケッ

50

ト 3 5 L , 3 5 R に差し込まれて固定され、そこからテンブル 3 0 L , 3 0 R の内側面 3 3 L , 3 3 R から徐々に逸れるように略直線部分 3 1 L , 3 1 R に沿って前方、すなわち、フロント 2 0 側に延びている。

【 0 0 3 3 】

テンブルパッド 4 0 L , 4 0 R は、根元部分 4 1 L , 4 1 R が細く、かつ、眼鏡 1 0 0 を装着した際に装着者のこめかみに接する先端部分 4 2 L , 4 2 R が下方に緩やかに膨らむ肉厚形状に形成されている。また、先端部分 4 2 L , 4 2 R は、モダン 3 2 L , 3 2 R の末端部分と同様に、内側に緩やかに膨らんだ肉厚の立体曲面形状をしている。

【 0 0 3 4 】

テンブル 3 0 L , 3 0 R の内側面 3 3 L , 3 3 R とテンブルパッド 4 0 L , 4 0 R の先端とのギャップはおよそ 7 mm である。また、テンブル 3 0 L , 3 0 R を開いた状態においてテンブルパッド 4 0 L , 4 0 R の根元部分 4 1 L , 4 1 R 間はおおよそ 1 3 0 mm、先端部分 4 2 L , 4 2 R 間はおおよそ 1 2 0 mm である。なお、これら寸法は一例であって、本発明はこれらに限定されない。

【 0 0 3 5 】

図 5 は、テンブルパッド 4 0 R の分解拡大図である。テンブルパッド 4 0 R は、塑性変形可能な金属製の芯材 4 3 R と、根元部分 4 1 R およびそれに続く先端部分 4 2 R が一体部材として形成された合成樹脂（好ましくはやや軟質の合成樹脂）製のパッド本体 4 4 R と、を備えている。芯材 4 3 R の一端は上下方向にわずかに膨らんでネジ穴 4 5 R が設けられている。パッド本体 4 4 R の根元部分 4 1 R の側面には芯材 4 3 R を差し込むための開口部があり、その開口部からパッド本体 4 4 R の全長方向に向けて芯材 4 3 R にパッド本体 4 4 R を被せることができるようになっている。芯材 4 3 R にパッド本体 4 4 R の奥まで被せた状態において、ネジ穴 4 5 R を含む芯材 4 3 R の一端が露出するようになっている。

【 0 0 3 6 】

芯材 4 3 R の寸法は、長さがおおよそ 4 0 mm、厚みがおおよそ 1 mm、上下方向の幅がおおよそ 1 mm、パッド本体 4 4 R から露出する部分の上下方向の幅がおおよそ 3 mm、当該部分の長さがおおよそ 5 mm、ネジ穴 4 5 R の直径がおおよそ 1 mm である。パッド本体 4 4 R の寸法は、全長がおおよそ 4 4 mm、厚みがおおよそ 3 mm、根元部分 4 1 R の上下方向の幅がおおよそ 4 mm、先端部分 4 2 R の上下方向の最大幅がおおよそ 1 2 mm、パッド本体 4 4 R の最先端部から上下方向が最大幅の部分までの長さはおおよそ 1 0 mm である。なお、これら寸法は一例であって、本発明はこれらに限定されない。

【 0 0 3 7 】

図 6 は、テンブルパッド 4 0 R の取り付けを説明する図である。同図に示すように、（ 1 ）芯材 4 3 R にパッド本体 4 4 R を被せ、（ 2 ）ネジ穴 4 5 R が設けられた芯材 4 3 R の一端をポケット 3 5 R に差し込み、（ 3 ）孔 3 9 R にネジ 4 6 R を通してネジ止めすることで、テンブルパッド 4 0 R をテンブル 3 0 R の内側の所定位置に固定することができる。

【 0 0 3 8 】

ネジ 4 6 R の長さはおおよそ 3 mm であり、直径はおおよそ 1 mm である。なお、これら寸法は一例であって、本発明はこれに限定されない。

【 0 0 3 9 】

テンブルパッド 4 0 R を交換する場合、ネジ 4 6 R を外してポケット 3 5 R からテンブルパッド 4 0 R を引き抜いて新たなテンブルパッド 4 0 R と交換すればよい。あるいは、ポケット 3 5 R に芯材 4 3 R をネジ止めしたままでパッド本体 4 4 R のみを交換することもできる。

【 0 0 4 0 】

図 7 は、テンブルパッド 4 0 R からパッド本体 4 4 R を引き抜いた状態を示す図である。テンブルパッド 4 0 R からパッド本体 4 4 R を引き抜くと芯材 4 3 R が現れる。芯材 4 3 R は、ネジ穴 4 5 R が設けられた一端から他端にかけてテンブル 3 0 R の内側面 3 3 R

10

20

30

40

50

から徐々に逸れるようにテンブル３０Ｒの延在方向に沿って延びている。同図に示したように芯材４３Ｒを露出させた状態で新たなパッド本体４４Ｒを芯材４３Ｒに被せればよい。

【００４１】

なお、テンブルパッド４０Ｌは上述のテンブルパッド４０Ｒと形状が鏡面对称になるだけであるため、詳細な説明を省略する。

【００４２】

効果

本実施形態に係る眼鏡１００は、左側のテンブル３０Ｌ、モダン３２Ｌ、ポケット３５Ｌ、および右側のテンブル３０Ｒ、モダン３２Ｒ、ポケット３５Ｒがそれぞれ一体部材として形成されており、特に、テンブル３０Ｌ、３０Ｒの外側面３４Ｌ、３４Ｒは、それぞれ、ヒンジ５０Ｌ、５０Ｒに接続される部分からモダン３２Ｌ、３２Ｒの末端に至るまで段差のない滑らかな曲面に形成されている。さらに、ヨロイ２３Ｌ、２３Ｒの上下方向の幅および厚みがそれぞれテンブル３０Ｌ、３０Ｒの上下方向の幅および厚みに合わされている。これによりテンブル３０Ｌ、３０Ｒを広げた状態において、フロント２０から左右のテンブル３０Ｌ、３０Ｒ、さらに左右のモダン３２Ｌ、３２Ｒに至るまでの部分が一体的に続いてすっきりとした印象を与えるデザインとなっている。

【００４３】

また、眼鏡１００を装着する際にモダン３２Ｌ、３２Ｒの末端部分の内側の立体曲面形状部分が側頭部に接触しながら耳の上部から後ろにかけて移動し、眼鏡１００を装着した状態においてモダン３２Ｌ、３２Ｒの末端部分が耳の後ろを左右両側から適度な力で挟み込んで眼鏡１００の後端を頭部にしっかりとホールドすることができる。

【００４４】

また、テンブルパッド４０Ｌ、４０Ｒの根元を、それぞれ、テンブル３０Ｌ、３０Ｒの略直線部分３１Ｌ、３１Ｒの後端付近に固定し、そこからテンブル３０Ｌ、３０Ｒの内側面３３Ｌ、３３Ｒから徐々に逸れるように略直線部分３１Ｌ、３１Ｒに沿ってフロント２０側に延びるようにテンブルパッド４０Ｌ、４０Ｒを配置したことで、眼鏡１００を装着する際にテンブルパッド４０Ｌ、４０Ｒの先端部分４２Ｌ、４２Ｒが側頭部に引っかからずにスムーズに眼鏡１００を装着することができる。

【００４５】

また、金属製の芯材を有するテンブルパッド４０Ｌ、４０Ｒが適度な弾力性を呈することで、眼鏡１００を装着した状態においてテンブルパッド４０Ｌ、４０Ｒの先端部分４２Ｌ、４２Ｒが左右からこめかみを適度な力で挟み込んで、鼻パッドなしでもフロント２０がずり落ちないようにしっかりとサポートすることができる。

【００４６】

さらに、眼鏡１００を装着していない状態においてテンブルパッド４０Ｌ、４０Ｒに指で力を加えるなどして、テンブルパッド４０Ｌ、４０Ｒの先端部分４２Ｌ、４２Ｒを眼鏡１００の装着者の頭部形状に合うようにより内側またはより外側に寄せることもできる。

【００４７】

また、テンブルパッド４０Ｌ、４０Ｒの芯材４３Ｌ、４３Ｒをテンブル３０Ｌ、３０Ｒに固定したままパッド本体が外せるため、テンブルパッド４０Ｌ、４０Ｒの交換が容易である。

【００４８】

さらに特筆すべきは、本実施形態に係る眼鏡１００は、側面視でテンブルパッド４０Ｌ、４０Ｒのほとんどがテンブル３０Ｌ、３０Ｒに隠れて見えなくなっていることである。図３は眼鏡１００の左側面図であるが、テンブル３０Ｌからテンブルパッド４０Ｌの先端部分４２Ｌの下部がわずかに覗く程度である。

【００４９】

このように、本実施形態に係る眼鏡１００は、こめかみとの接触部分の面積が比較的大きいテンブルパッド４０Ｌ、４０Ｒを採用しつつ、眼鏡１００の装着時にテンブルパッド

10

20

30

40

50

40L, 40Rが目立たないようにしている。これにより鼻パッドなしで安定的に装着可能であるとともに装着時に支持構造を目立たなくするといった所期の目的が達成されている。

#### 【0050】

##### 変形例

上記の眼鏡100は次のように適宜変形してもよい。例えば、左側のテンプル30L、モダン32L、ポケット35L、および右側のテンプル30R、モダン32R、ポケット35Rをそれぞれ別のパーツで形成して繋ぎ合わせるようにしてもよい。

#### 【0051】

ポケット35L, 35Rを設けずに、テンプル30L, 30Rの内側面33L, 33Rにテンプルパッド40L, 40Rを直接固定するようにしてもよい。

#### 【0052】

フレーム21L, 21Rをツーポイントフレームやナイロールフレームにしてもよい。

#### 【0053】

ヒンジ50L, 50Rをなくしてもよい。

#### 【0054】

テンプル30L, 30Rの上下方向の幅を少し広くする、あるいは、テンプルパッド40L, 40Rの先端部分42L, 42Rの上下方向の幅を少し狭くする、またはその両方を行って、側面視でテンプルパッド40L, 40Rの全体がテンプル30L, 30Rに隠れて見えなくするようにしてもよい。

#### 【0055】

##### 髪の毛の挟み込み対策

上記実施形態に係る眼鏡100では、テンプルパッド40L, 40Rがテンプル30L, 30Rの後端部分からフロント20側に向けてテンプル30L, 30Rの内側面33L, 33Rから徐々に逸れるように配置されているため、眼鏡100を装着する際に髪の毛がテンプル30L, 30Rとテンプルパッド40L, 40Rとの隙間に入り込んでテンプルパッド40L, 40Rの根元部分41L, 41Rに引っ掛かって抜けなくなってしまうおそれがある。そこで、テンプルパッド40L, 40Rを逆向きに配置してもよい。すなわち、テンプルパッド40L, 40Rの根元をヒンジ50L, 50R付近に固定して、そこから後方に向けて先端部分42L, 42Rがテンプル30L, 30Rの内側面33L, 33Rから徐々に逸れるようにテンプル30L, 30Rの延在方向に沿ってテンプルパッド40L, 40Rを取り付けてもよい。

#### 【0056】

あるいは、テンプルパッド40L, 40Rの根元部分41Rに凸部を設けてもよい。図8は、変形例に係るテンプルパッド40Rの斜視図であり、図5を裏から見た図である。当該変形例に係るテンプルパッド40Rにおいて、パッド本体44Rの根元部分41Rのテンプル30R(図略)に面する側に、根元部分41Rにおけるテンプルパッド40Rとテンプル30Rとの隙間を埋める程度にわずかに突起した凸部47Rが形成されている。一例として、凸部47Rは、パッド本体44Rの根元部分41Rの表面からおよそ1mm突起して、パッド本体44Rの根元部分41Rの側面(芯材43Rを差し込むための開口部端)からおよそ2mmの幅で先端部分42Rに向けておよそ6mm延びている。図9は、図8のテンプルパッド40Rをテンプル30Rに取り付けたときの取り付け部分の拡大図である。凸部47Rによってテンプルパッド40Rの根元部分41Rにおけるテンプルパッド40Rとテンプル30Rとの隙間が埋められることにより、眼鏡100を装着する際に髪の毛がテンプル30Rとテンプルパッド40Rとの隙間に入り込んでもテンプルパッド40Rの根元部分41Rに引っ掛からずにすっと抜けることができる。

#### 【0057】

凸部47Rの形状は図5に示したものに限られず、断面形状が三角形やかまぼこ型であってもよい。また、凸部47Rは、テンプルパッド40Rの根元部分41Rの側面から延在していなくてもよく、根元部分41Rの側面から6mm程度の位置において突起するよ



うに設けてもよい。あるいは、テンブルパッド４０Ｒに凸部４７Ｒを設けずに、テンブル３０Ｒの内側面３３Ｒ（図７参照）に凸部を設けるようにしてもよい。なお、テンブルパッド４０Ｌはテンブルパッド４０Ｒと形状が鏡面对称になるだけであるため、テンブルパッド４０Ｌの変形例についての詳細な説明を省略する。

#### 【００５８】

##### フロントのずり落ち対策

眼鏡１００には鼻パッドがないため、装着時にモダン３２Ｌ，３２Ｒが装着者の後頭部（耳の後ろ）をしっかりと保持できていないとテンブルパッド４０Ｌ，４０Ｒの先端部分４２Ｌ，４２Ｒを支点にしてフロント２０がずり落ちてしまうおそれがある。そこで、後頭部をよりしっかりと保持できるようにモダン３２Ｌ，３２Ｒの厚みをより厚くしてもよい。図１０は、通常の高ダンと変形例に係る高ダンとの比較図である。通常の高ダンと同様に変形例に係る高ダンも先端付近が肉厚に形成されて内側に膨らんでいるが、その最厚部の厚みは通常の高ダンのおよそ３倍の７ｍｍ程度にされている。このように高ダンの先端付近の厚みを厚くすることで眼鏡１００を装着したときにモダン３２Ｌ，３２Ｒが装着者の後頭部をしっかりと保持することができ、フロント２０のずり落ちを防いで眼鏡１００の装着感を向上させることができる。

10

#### 【００５９】

以上のように、本発明における技術の例示として、実施の形態を説明した。そのために、添付図面および詳細な説明を提供した。

#### 【００６０】

したがって、添付図面および詳細な説明に記載された構成要素の中には、課題解決のために必須な構成要素だけでなく、上記技術を例示するために、課題解決のためには必須でない構成要素も含まれ得る。そのため、それらの必須ではない構成要素が添付図面や詳細な説明に記載されていることをもって、直ちに、それらの必須ではない構成要素が必須であるとの認定をするべきではない。

20

#### 【００６１】

また、上述の実施の形態は、本発明における技術を例示するためのものであるから、特許請求の範囲またはその均等の範囲において種々の変更、置き換え、付加、省略などを行うことができる。

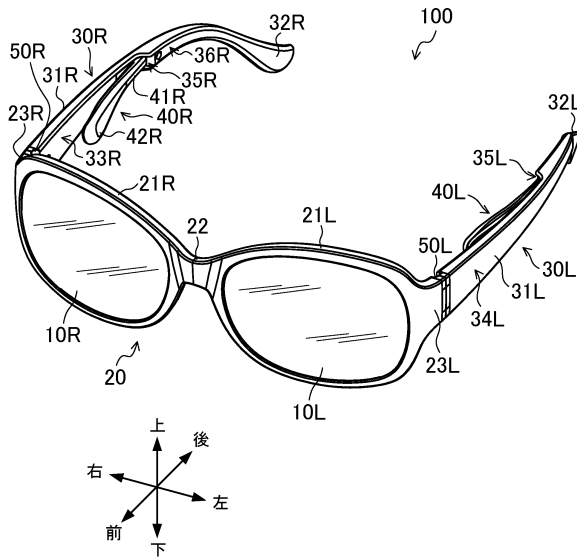
#### 【符号の説明】

30

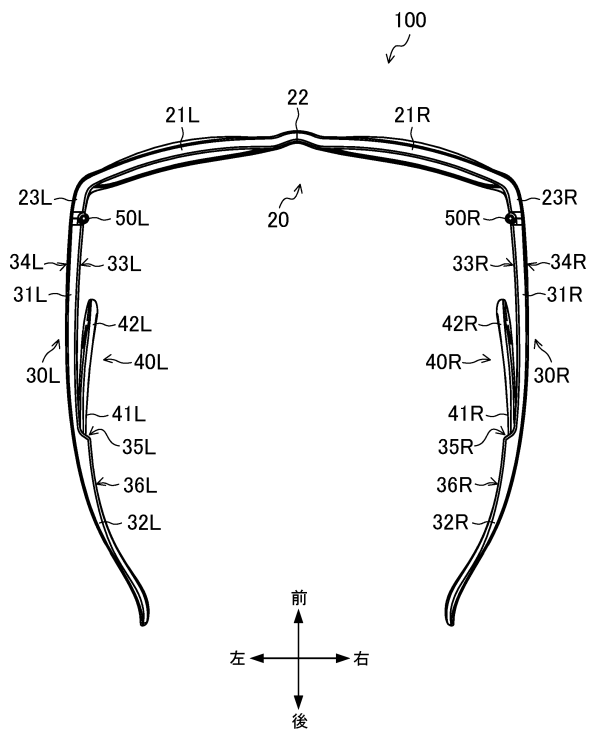
#### 【００６２】

１００...眼鏡、３０Ｌ，３０Ｒ...テンブル、３２Ｌ，３２Ｒ...モダン、３５Ｌ，３５Ｒ...ポケット、４０Ｌ，４０Ｒ...テンブルパッド、４１Ｌ，４１Ｒ...根元部分、４２Ｌ，４２Ｒ...先端部分、４３Ｒ...芯材、４４Ｒ...パッド本体、４７Ｒ...凸部

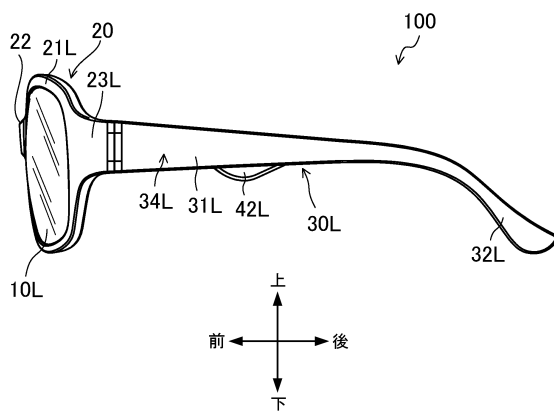
【図 1】



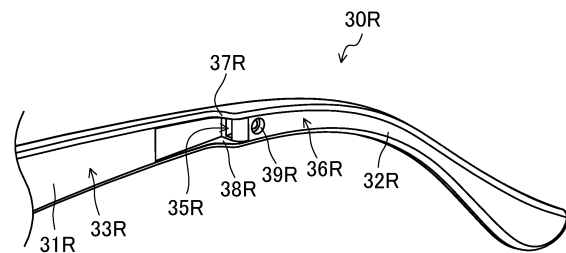
【図 2】



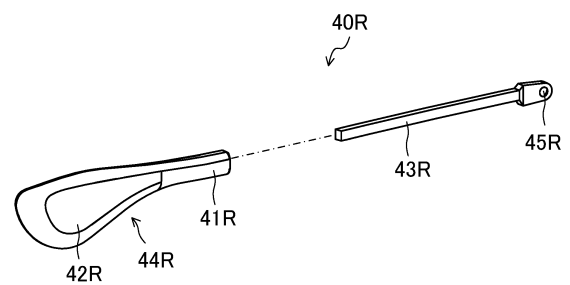
【図 3】



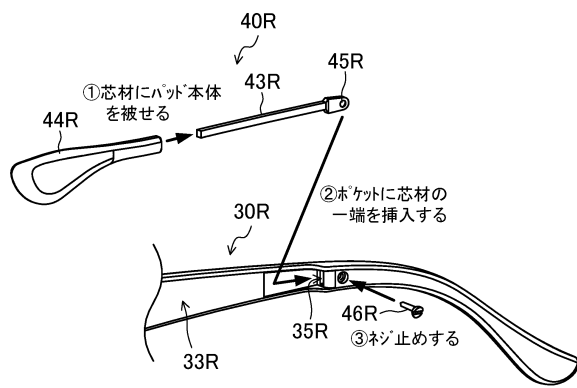
【図 4】



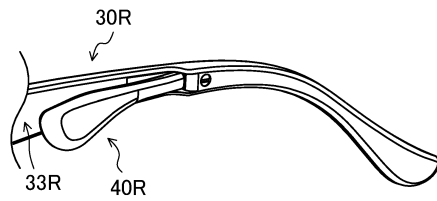
【図 5】



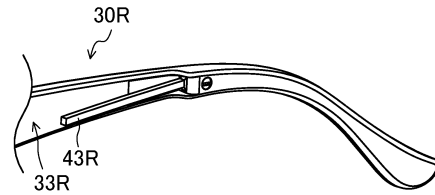
【図 6】



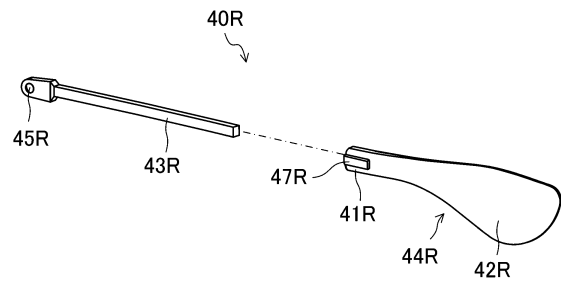
↓ テンプルパッド取り付け後



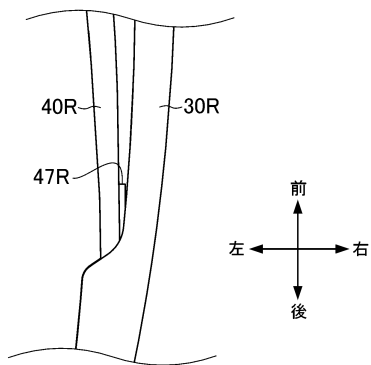
【図 7】



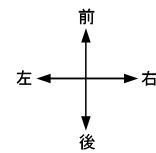
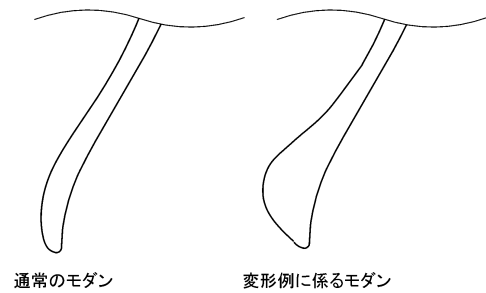
【図 8】



【図 9】



【図 10】



---

フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭54-43338(JP,U)  
特開2003-121800(JP,A)  
実開昭54-14551(JP,U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)  
G02C 1/00 - 13/00